

テーマ 『学校で知事と語ろう～若者の声を県政に～』

開催日時・会場

- ✚ 平成25年2月8日（金）16時20分～18時20分
- ✚ 長野西高等学校

参加者

- ✚ 意見交換参加者 15名
(知事・生徒14名)
- ✚ 部活動見学 バトン班27名



会場の様子など

若者の声を直接聞くため、県政タウンミーティングとしては初めて、学校を訪問して、高校生との意見交換を実施しました。併せて、素晴らしい成果を上げている部活動の見学も行いました。

参加された長野西高等学校の国際教養科の2年生の皆さんは、説明用スライド資料の作成や知事に伝える意見の検討など、万全の準備をしてこの機会に臨んでくださいました。

知事は、冒頭、「これからの長野県を担う世代の皆さんの声をしっかり聞きたいと思って来た。どんなことでも構わないから、率直に思ったことを言って。」とあいさつし、生徒たちの進行によって意見交換に入りました。

生徒たちの意見に触れ、知事からは、「仕事だけを一生懸命にやっている、制度の仕組みの話ばかりになって、その制度が、本来県民のためにあるという大切なことを見失ってしまいそうになる。そうならないように、タウンミーティングを行って、皆さんと直接話そうにしている。今日は、良い意見がたくさん出てきて、私も刺激を受けた。」との感想がありました。

参加者の主なご意見・学校見学の様子

生徒から「外国語指導助手が授業のアシスタントをするだけでは不十分。生徒と交流できる機会を増やしてほしい。」との発言があり、知事は「私も交流は必要だと思う。また、地域にも、英語を話せる人、外国の人、海外での生活経験がある方々がいるので、開かれた学校にして、生徒と交流できる場も作っていきたい。」と、思いを伝えました。

また、生徒から「講演会などを開くのにふさわしい設備や機材を整備してほしい。」との要望があり、知事は、「現在の財政状況では、必要な予算を確保するのが難しい。学校施設では、壁が落ちて危険などの緊急を要する補修だけで12億円から13億円必要で、それらを優先して予算案に盛り込んだ。」と説明しました。

さらに、生徒から「将来、労働人口は減少するので、ヨーロッパの進んだ制度を導入するなど、家事や育児で男性が女性をサポートできる環境を作ってはどうか、また、健康な高齢者に休日保育や病児保育を担ってもらうなどして、女性の就業を助けるべき。」という提案がなされました。知事は「提案は受けとめたい。女性の社会進出のため、一緒に協力してください。」と答えました。



また、知事は、全国高等学校ダンスドリル選手権大会で2連覇（優勝4回）という実力を持つバトン班の演技を見学しました。

演技を見終えたあと、自身が海外を訪問した際に、現地で盛大に歓迎された例を挙げて、県庁に要人を迎えるときの歓迎行事などでも、是非演技してもらえないだろうかなどと生徒たちに語りかけました。